令和 4 年度　　（別紙2）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4076100207
法人名	有限会社　福寿草
事業所名	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ福寿草
所在地	福岡県飯塚市北古賀731番地3
自己評価作成日	令和5年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　アーバン・マトリックス　福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和5年3月21日	評価結果確定日	令和5年6月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然に恵まれ陽ざしや風を気持ちよく感じ、広く明るいロビーからは四季折々の懐かしい田舎の風景が楽しめます。天気次第では庭やウッドデッキで体操、歌、食事をします。また、窓越しに見える田んぼや博多と直方を行き来するJRの電車の動く絵が見えます。昼間はほとんどの入居者様がロビーでテレビを観たり、お喋りをされて過ごされています。時には居室で日光浴をされたりもします。屋内で過ごす時間が長い為、より気持ちよく過ごせるよう整理整頓や清潔を保ち掃除は毎日丁寧に行います。寝具を干し、夜は太陽の匂いに包まれて快眠です。福寿草では、理念のとおり、楽しく、笑顔、穏やかに、安心、安全を守り大きな声や物音を立てず生活ができる様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

グループホーム福寿草は、広い敷地にゆとりをもって建てられた平屋建て1ユニットの事業所である。開設して19年を迎える歴史の中で、入居者・職員が一緒に一泊旅行に出掛けたり、事業所を拠点とする徘徊模擬訓練を実施する等の実績を重ねている。日常の暮らしは、栄養士・調理師の資格を持つ職員が常勤で配置されている事から、旬の食材を用いた手作り料理を提供しており、好評を得ている様子。また複数の協力医療機関との連携を図り、日常の暮らしの延長にある看取り支援についても実践を重ねている。豊かな生活環境の中で、本来のグループホームらしさが伝わる事業所である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員全員が現実に向け取り組んでいる。	開設時に作成された地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念は、目につきやすい場所に掲示されている。	開設して19年目を迎える中、あらためて理念の共有や見直しに取り組むことで、方向性を共有する機会を持ってほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し地域の老人会に参加している。	自治会に加入し、利用者個々人として老人会にも加入している。法人代表者も地域住民の為、回覧板の受け渡し等、日常の中でのつながりがある。以前は事業所を拠点とする徘徊模擬訓練（入居者参加）を開催した実績もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加した時に認知症の人の生活等を話し家族や親類にいる認知症への理解や支援の方法を知ってもらう。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状報告をする。ホーム近隣の地域性などをよく知る老人会の会長さんに天災や火災等の事を助言をいただき利用者様の安心して生活できるように活かしている。	運営推進会議は、コロナ禍の為、書面開催としており、議事録を半年ごとに行政へ送付している。以前は自治会長や民生委員、警察官等の参加を得て活発な意見交換が行われていた時期もあり、今後は地域への声掛けを行い参加を依頼していく予定としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	台風が接近してきる時、事前対策として避難場所等の確認したり、市町村から認知症で徘徊していた人を今晩だけ止めてもらえないかと相談があったりする。	昨年行政指導を受け、様々な視点から改善に取り組んでいるところである。事業所の実状を共有しながら、運営や制度、困難事例等について助言を得ており、サービスの質の確保に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の生命に関わる等、それしか方法がないのか家族や職員を含め話し合い家族の同意を得る。玄関の施錠はない	身体拘束等の適正化のための指針を定めている。運営推進会議の開催に合わせて委員会を開催し、現状を振り返る機会を持つようにしている。あらためて研修を再開し、職員の意識向上に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用者さんへの言葉や態度が気になる時すぐに注意をし、いじめや虐待に繋がらないように話をするように心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の関わりが困難な利用者さんは地域権利擁護の活用をしている。後見人制度の研修も受けた。	権利擁護に関する制度について、資料を準備し閲覧可能としている。制度を活用している方もおり、関係機関との連携に努めている。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、定期的に研修機会を確保し、制度の理解に努めていく事が必要です。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の決心をされるまでに家族や本人に不安があるので時間をかけて説明をし納得していただきます。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月/1回相談員さんが訪問され、利用者さんと話をされます。相談員さんから利用者さんの声を聞く事があります。職員も時間があれば横に寄り添い話を聞くように心掛けています。現在、感染対応の為、訪問されていない。	遠方の家族以外、利用料の支払いに毎月事業所を訪問されている。コロナ禍である為、面会を制限せざるを得ない状況もあったが、出来る限り意見や要望等の聴取に努めている。家族と職員の距離感が近く、意見を言いやすい関係づくりに努めているとのこと。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞを行い職員の意見や提案を聞き話し合いできる事は反映させている。	毎月、全職員参加を基本とするミーティングを実施しており、業務改善や環境整備等について、活発な意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働く職場環境を少しづつ変えて行けるよう努力をしています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集時、性別や年齢は問いません。福祉の仕事に熱意のある方や自分の生活に一生懸命な人を採用します。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。現在、管理者を中心として、事業所のより良い方向性を検討し、事業所全体の質の向上に取り組んでいるところである。栄養士・調理師の資格を持つ職員が常勤で配置されており、温かい手作り料理を提供している。	職員の休憩時間や場所の確保については、再検討していく事が求められます。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権は尊重しながら支援しています。法人代表者は人権教育を受けています。	行政指導を受け、人権擁護や虐待防止、身体拘束等に関する研修実施に取り組み始めている。	入居者の人権や権利擁護等に関する研修については、今後も定期的に取り組んでいく事が求められます。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士・介護支援専門員の資格取得など、研修受講の支援協力している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯塚市地域密着型ｻｰﾋﾞｽ事業所連絡会に入会。他事業所と職員交換研修をし、ｻｰﾋﾞｽの質を向上させた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や求められる事に、傾聴し家族として安心して暮せる場所である事を説明し信頼関係をつくる努力をします。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	病院や施設からの入所と自宅からの入所では家族の思いに違いがあるようです。忙しい家族からの話は一度では聞き取れませんので面会時間の決まりがない事をつげ細目に面会に来てほしいとお願いをします。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それまでのｻｰﾋﾞｽ利用と要望を含めて検討します。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	目線を同じにする。本人に何かしようとするとき不安を与えないように必ず声かけて行動する。本人が生活の中で、出来そうな事をみつけ一緒にする。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私達は利用者さんが入所されてからは家族同然の生活をしますので家族にそんな不安は与えないと思っています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所される前の場所によりますがｲｷｲｷｻﾛﾝへ行くと90歳が小学校時代の同級生に会い昔の懐かしい話をされる場面があります。家族に話をするとあまりいい顔をされない場合があります。	毎月の利用料の支払いに家族が来訪し、窓越し面会が実施されている。以前は町内会や老人会への活動参加機会があったが、コロナ禍の為、交流機会は減少している。新たなアセスメント様式を導入し、生活歴等の情報収集に取り組んでいるところである。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いつも仲良しの人がいて穏やかに生活していたのに新しい利用者さんが来られて、それまでの人の間に入り関係が壊れる事があります。椅子や食卓の配置に気を使い、孤立しないように支援します。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に継続的なかかわりを必要とされる利用者や家族の例はありませんが必要とされれば断ち切らない支援はしていきます。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	小さな団体生活の中で本人の暮らし方の希望や意向は話し合いや観察で取り入れるように努力している。	アセスメント様式を更新し、多様な視点から入居者個々人の把握と理解に努めている。本人や家族、関係者より聴き取りを行い、入居契約時及び定期的な再アセスメントにより、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から多くの情報を得、長年暮してこられた住まいを見に行く事もある。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	聞き取りだけでは、現状が把握できない部分が多くありますので、しばらく生活状態や心身の把握をし、その人らしい過ごし方を見つけます。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員と担当者会議で話し合い、実行できる介護計画を立てている。	日々の各種帳票作成や定期的なモニタリング・カンファレンス等を通じて、現状の確認と見直しの必要性の検討に努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や業務日誌により、申し送りや担当者会議にて情報を共有し、身体や精神状態の変化に気づき介護計画の見直しをする。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	立地条件に恵まれており外気浴、体操、レク、歌、木の下での食事を楽しみ、草むしりの好きな方は、畑に入り夢中でしています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身体状況に合わせ地域のｲｷｲｷｻﾛﾝに月/1回参加し地域の福祉委員さんによる脳ﾄﾚやﾚｸがあり、昼食を頂いてきます。いつもと違う雰囲気を楽しまれます。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にし、入居前の主治医受診や往診を受けられる様に支援しています。	2カ所の協力医療機関との連携を図り、訪問診療及び往診による健康管理体制がある。家族の協力を得ながら受診も支援しており、情報共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医や看護師と相談しながら適切に対応しています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医師や看護師、SWとの情報交換に努めている。退院が決まれば、医師、看護師、SWと今後の生活について相談、助言をもらい、受入れの体制を整えます。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族が看取りの意向を示され、家族会議を行い、看取りに関する重要事項を説明し署名・捺印を頂いている。毎週、ｶﾝﾌｧﾚﾝｽを行い、亡くなられたときには、2週間以内にｸﾞﾘｰﾌｹｱを行っている。	契約時に事業所の方針や医療との連携体制を説明し、意向を確認している。あらためて重度化や終末期のあり方について事業所としての指針を定め、本人、家族の意向に寄り添っていく方針である。看取りの実績もあり、状況の変化に応じて話し合いを重ね、意向の再確認と方針の共有を図っている。	本人・家族の意向に寄り添い、看取りの支援を重ねている。訪問看護との連携等、より良い体制づくりに向けた取り組みについても検討して欲しい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていません。職員には、冷静に対応する様に伝えています。代表者が近くに住み、駆けつけ対応できる体制がある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃から近隣に住む方にﾎｰﾑの状態をお知らせし、災害時の救出の協力をお願いしています。避難訓練は定期的に行い、自火報装置、ｽﾌﾟﾘﾝｸﾗｰを設置しています。	各種災害対応マニュアルを整備し、年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施し、地域消防団の協力を得る機会もある。平屋建て各居室は掃き出しの窓の為、避難経路は確保しやすいと思われる。	火災だけでなく、地震や風水害を想定した訓練実施が求められます。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の居室へ入室する時は本人に目的を伝え、居室にいるときはﾉｯｸをして入室の許可を得ている。	家庭的な雰囲気の中で、個人の生活習慣やペース、居場所の確保への配慮に努めている。	声量やトーン等、入居者の存在を意識した会話を心掛けて欲しい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や自己決定の結論を急がず、ゆっくりを話を聞きながら否定する事なく、必要な情報、わかりやすい表現を用いて提供し、意思を確認している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人のﾍﾟｰｽに合わせて、時間をズラす等の支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容時に希望がにより支援を行い、必要なものがあれば、準備をしています。ﾚｸﾚｰｼｮﾝの一環として、ﾏﾆｷｭｱ等をする時間を作っています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ等、個人の能力に合った作業を職員と一緒に行い、料理法を尋ねながら楽しく作業していただいている。	栄養士・調理師の資格を持つ職員が常勤配置されており、旬の食材を用いた手作り料理を提供している。地域のスーパーや近隣からの差し入れも活用しながら、土筆や蕗の下ごしらえ等に利用者の方々が力を発揮する場面がある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	誤嚥の可能性がある利用者さんには、ﾊﾁﾐﾂ状のﾄﾛﾐを付け、食事中は見守り・観察しながら食事介助等を行い、変化があれば、すぐに対応できる体制をとっている。十分な水分補給を心がけ記録に残している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立にて口腔ｹｱを行っている利用者には、歯磨き後、口腔内の確認を行い、残渣物があれば磨き直しをしてもらっている。口腔ｹｱの支援が必要な利用者には、腫れや出血、痛み等がないか確認している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はｵﾑﾂ使用、日中はﾘﾊﾋﾞﾘﾊﾟﾝﾂと使い分けをします。時間をみながらﾄｲﾚでの排泄を促しています。記録に残し、個人のﾀｲﾐﾝｸﾞやﾊﾟﾀｰﾝに合わせて支援を行っています。	個別の排泄状況やパターンの把握に努め、日中はトイレでの排泄を基本として声掛け・誘導を行っている。水分量の確保に努め、事業所内での調理であることから食材の工夫等により便秘予防にも配慮されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本的には、水分多め、繊維質のものを摂取していただいている。状態に応じてﾖｰｸﾞﾙﾄ等を摂取、運動を取り入れるようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日毎の入浴で時間は決めていますが、状態に応じて時間をｽﾗす等の対応を行っています。	基本的な入浴スケジュール（隔日）は設定しているが、希望や状況、体調等に応じて、柔軟な対応を心掛けている。状況に応じて職員2名での対応を行い、ヒートショック対策も意識しながら支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、ｳﾄｳﾄされる方がいますが、ﾚｸﾚｰｼｮﾝ、体操等にて対応しています。短時間の昼寝をして頂いています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋を見分けやすいように工夫し、誤薬のないように、本人様と一緒に名前を確認し服薬してもらい、様子観察を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知の進行が早く少し前の事を忘れるも畑で草むしりをしたがり、自室では、お化粧を楽しまれます。静かに本を読むのも好きなようです。何もしないで部屋で一人過ごされる方もいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事や受診・理美容室への外出支援をしています。	敷地が広く、気軽に外気浴が行える環境である。コロナ禍以前は、地域行事や活動に参加する機会や庭先で食事をする場面もあった。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さや執着はどなたにもあると思いますが、管理ができないと他の利用者さんに迷惑をますので、本人が所持する事は避けています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からかかってきた電話は本人と変わります。ご家族が近くに住んでいる方が数名いらっしゃるので、お手紙は、直接持って来られたりされます。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	立地条件が良く居間や自室から季節感を十分に感じられる。全室暖かい陽が差し込み心地よく生活ができる。	平屋建て1ユニットの室内空間はゆとりある広さが確保され、整理整頓や清潔保持に配慮されていることがうかがえる。台所からは調理の様子が伝わり、生活感のある共用空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うもの同士が語り合ったり笑ったりしているのを笑顔で見ている方の姿もあります。時には喧嘩されることもあります。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持って来られる方は少ないです。洋服は着馴れた物がいいようです。ｶｰﾍﾟｯﾄ類は転倒の危険があるのでお断りする事があります。	掃き出しの窓が設置された各居室は採光も良く、開放的である。シンプルな居室が多いが、動線の確保等に配慮しながら、安心して過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖は建物の中では使わないようにします。入所時から見守りの強化をして手摺や物を手引き歩行を促します。野外に出るときは杖を使用します。		